

第1回生駒市総合計画審議会（第二部会）

開催日時 平成28年7月21日（木） 13:30～

開催場所 生駒市役所 401・402会議室

出席者

（委員） 久委員、大原委員、楠下委員、中山委員

（事務局） 石畑市長公室次長、坂谷政策企画推進課長、

岡村政策企画推進課課長補佐、日高政策企画推進係長、高松政策企画推進係員

議事内容

(1)各小分野の検証

(2)その他

【事務局】 開会宣告、配布資料確認

以下、発言要旨

№. 311 土地利用

【久部会長】 まちづくりコンシェルジュについては、現在コンシェルジュとしてまだ動いていないのではと思っている。

【大原委員】 久先生の専門の分野なのかもしれないが、そもそもどういう制度なのか、また今後の展開を知りたい。

【久部会長】 地域の方々が自らまちづくりをやろうというときに、応援に入りたいという制度であるが、おそらくまだ市民の方にも伝わっていない。まずは周知をし、積極的にその地域からお声をかけていただくと。また都市計画のまちづくりだけじゃなくて、商業の活性化のまちづくりも、利用できるものである。いろんな形でまちづくりをやりたいというときに、呼んでいただければいいのかなというように思っている。そういういい制度なので、ぜひとも私は、生駒でも積極的に活動していただければなど

思う。他、全般のご意見あるだろうか。

【楠下委員】 土地利用の方向性としては、環境負荷が少なく、コンパクトなまちづくりにつながるような都市計画を目指すという方向性としては出ていると思う。今後も具体的に取組を進めていただければ、さらに良くなるかと思う。

【久部会長】 自己評価でも書いていただいているように、既に動いているところ、あるいは拠点的などころは着々と成果が出ているようなので、これをいかにして全市的な展開に持っていけるかということがこれからの勝負である。

【楠下委員】 地区計画の導入というのはハードルが高い面があるかなと思う。時期とともにまちの形態が変わっていくが、やはり土地自体も細分化されていたり、どうしてもまちとして変わっていく可能性もあるので、地区計画を導入するに当たっての合意形成がなかなか難しい、いわゆる地域の市民の合意が必要になる。

【久部会長】 それでは進捗度を確認させていただくが、行政の進捗度がCで、委員としても4人がCということで、進捗度はCでよろしいか。

(異議なし)

No. 312 住宅環境

【楠下委員】 空き家対策については、ほぼ方向性は決まってきたと思う。

【久部会長】 今、いこまの魅力創造課で、これから空き家対策の方も本格的にやっついこうかというような話にはなっている。これは他市でも同じなのだが、一番のネックは、空いているけれども、貸してくれないということである。貸していただけたら何とでもできるのだが、そのあたりがちょっと苦戦している。また、生駒市の場合は、こういうまち中の空き家と、郊外ニュータウンの空き家と、それから高山のような市街化調整区域の空き家と、この3タイプの空き家は少し仕分けをしながら、戦略を切り分けておいた方がいいのではないかと思っている。

【事務局】 空き家自体の対策は、今、建築課の方でも、空き家対策プロジェクトチームというのを庁内で体制を組んで、今年1年かけて現地調査をする予

定である。

【久部会長】 それでは進捗度の確認に入るが、行政がCで、我々4人ともCということなので、進捗度はCでよろしいか。

(異議なし)

No. 313 拠点整備

【楠下委員】 指標から見ると、いずれも大体目標を上回った状況になっている。これはやはり新しい交通網の整備なんかがベースになって、この流れになっているんだと思う。拠点整備だと、当然人が集まりたくなるような良好なまちづくりをしていこうという方向で、生駒市の拠点整備計画の中で少しずつビジョンが見えてきたかなという感じはする。あとは中長期的な実行をどのように推進していくかということになってくる。

【久部会長】 例えば、学研北生駒の駅前も、スターバックスを立地したりして、それなりのまちの顔にはなってきたのかなとは思う。

【楠下委員】 あともう1つ、せっかく奈良先端科学技術大学院大学があるので、連携した何か拠点整備計画なりを盛り込んでいく必要があるのではないかなと思う。世界的な研究拠点があるというふうなことも生駒市の1つの特徴でもあるので、そういうものを含めた拠点整備の計画を進めていけば、何か生駒市らしい特長を出せるのではないかな。

【久部会長】 先の見えない部分も少なからずあるが、今やれることはしっかりとやっていただいて、成果は出ているかなと判断をさせていただきたいと思う。進捗度については行政がC、我々もCということで、進捗度はCでよろしいだろうか。

(異議なし)

No. 321 道路

【楠下委員】 道路計画につきまして、国道163号線のバイパス工事がかなり具体的に見えてきたので、学研生駒テクノエリアも含めて利便性が非常によくなるだろうと市民の皆さんも思っておられると思うが、こういう大きな幹線道路の計画が進んでいる一方で、生駒市内の道路で、道路ストック

の点検等もきめ細かにやられておるということである。今後も継続的に道路整備を進めていただければ結構かなと思う。また、今後地震であるとか、災害が発生したときのスムーズな対応が必要になってくるが、そういうことも想定して、計画の中に見込んでおられるようなので、進捗度としてはCではあるけども、取組の計画は明確になってきたことを評価したい。

【久部会長】 指標の未達成の理由欄でもコメントにあるように、「国の交付金の配分が少なく、財源不足となったため」という話なのだが、これは国に振り回されているのかなと。今は、お金が大体東日本大震災の復興と、オリンピックについている。だからなかなか関西にお金が回ってこないという構造になっている。

【楠下委員】 全体的に言えることだが、行政の計画というのは中長期的な計画が多いので、途中が市民に見えない。だから、3年、5年先にこうなりますよというような絵を皆さんに示すだけでもいい。事前にそういうことをやっていただくと、市民の方の理解度も上がってくるんじゃないかと思う。

【大原委員】 反対意見を考えると、なかなか途中の絵を事前に示すのは難しい部分が多い。

【久部会長】 それでは進捗度について、行政の進捗度がCだが、委員会としてもCということではよろしいか。

(異議なし)

N o . 3 2 2 公共交通

【久部会長】 生駒市に限らず、バスを走らせても乗らない。そもそも論で言えば、皆さんがバスに乗ってくださったら、奈良交通はもっとバスを走らせているはずなのだが、乗らないから、便数を減らしていくという話になっているわけである。そこにコミュニティバスを走らせたって、結局、状況は変わらない。やっぱり利用者さんがそもそも積極的に使っていない限り、公共交通は充実してこないと思う。

【大原委員】 奈良交通、近鉄タクシー、それらが市民からすれば公共交通機関であると思っていないのではないかと、あくまでも民間企業がやっているのだ

からというような考えになっていないだろうか。

【久部会長】 日本は公共交通に対する税金の投入の割合が少ない。ヨーロッパはもっと割合が多い。経営は民間がやっているかもしれないが、やはり公共の乗り物なんだから、税金を投入した乗り物じゃないかというふうな考え方を持っているわけである。そこの考え方の違いは大きい。進捗度については、行政の進捗度がCで、我々もCとなっているが進捗度はCでよろしいか。

(異議なし)

No. 331 5R

【楠下委員】 ごみの有料化が始まって以来、全体的なごみの量は減ってきているという実績も出ているし、この5Rを推進することによって、やはり市のごみ半減の目標の一環として、非常に大きな影響はあるのではないかなと感じている。また環境フェスティバルのリユース市やリサイクル市というのは、とても人気がある。それから、ごみ半減に対するPRもかなり強力にやっておられるし、さらに継続して進めていただければ結構かなと思う。

【久部会長】 最近、いわゆる民間のリサイクルショップに持ち込む市民も増えているが、そういうものは指標には載ってこない。行政に持ち込まれるものだけをカウントしているので、そのあたりをちょっと気にしていただくと、実際にはもう少し伸びているはずではないかなとは思っている。

【中山委員】 高齢になってくると、大きなものを持ち込むのに労働力が要る。どうしても地域で回ってくる無料で回収してもらおうところに出してしまう。バイク、自転車等ほとんど無料である。

【久部会長】 それから、事業系のごみが増えている理由について、担当課は大型店舗出店があったことが原因ではないかなというふうに書いているが、もう1つ、世の中の景気が上がってきたので、生産活動が増えてくると、自ずとごみが増えていくということもあるのではないかなというふうに思う。産業が活性化すると、ごみが増えるということにつながってくるわけですので、なかなか難しい問題ではある。

【楠下委員】 生産される側も、ごみばかり出してると、儲からなくなるので、いかにごみを少なく生産するかということで、事業者は事業者で工夫はされている。したがってやむを得ずごみが出たものについては、リサイクルする方向で資源化する、それしかないので、消費する方も買う。生産者と消費者の両者が資源を循環できるようにうまく考えながら動くということは必要かと思う。

【久部会長】 それでは、進捗度について、行政の進捗度がC、委員としても皆さんCということで、進捗度はCでよろしいか。

(異議なし)

No. 332 環境保全活動

【久部会長】 環境保全という意識が市民全員に浸透しているのかというところを感じてしまう。ほかの環境問題も同じで、意識の高い方はますます頑張ってもらえるが、市民全般という話になってきたときに、まだまだ創意工夫の余地があるという気はしている。また、生駒市が環境モデル都市になっていることを、市民がどれだけ知っているかということも気になる。

【楠下委員】 久先生がおっしゃるように、市民全員にどこまで浸透しているかというのは、なかなか難しい面があるが、環境フェスティバル等のイベントをやらせていただいた感じでは、かなり多くの市民の皆さんが来てくださっているイメージがある。

【久部会長】 小中学校の環境の教育をどうやって高めていくかも非常に重要だと思う。については、学校の先生相手に環境教育とは何であるかをレクチャーしてもらいたい。授業中だけでなく、やはり学校生活そのものに環境配慮をどれだけ取り入れてもらえるかというのを広めていってもらいたいと思う。

【大原委員】 私は、実際のところ、進捗度はAに届くくらい頑張っておられるというふうに思っていた。ただ、省エネ家電の補助金などでも、市民の皆さんにどこまで浸透しているのかなとは思っている。

【中山委員】 私は知っているが、関心のある人と関心のない人の差があるように感じる。

【久部会長】 それから、私は奈良県の環境計画も作らせてもらっているが、その会議の中で、奈良県は自治会への環境啓発をしたらどうかという話をしている、環境の意識を高めるために、やっぱり自治会活動の中にこういう環境の活動を入れていただくというのも、1つかなというふうに思っている。先ほどの話にもあったが、学校や自治会というのは、今まで環境にあまり興味、関心のない方に伝える1つの窓口として使えると思っている。それでは進捗度について、行政の進捗度はBで、我々はBが3人、Cが1人ということで、多数のBで決定して皆さんよろしいか。

(異議なし)

№. 341 生活排水対策

【楠下委員】 この生活排水対策については、やはり下水道の普及がとても重要になっていて、これについては生駒市の下水道の長期計画で順次、普及率を上げるように努力されていまして、この指標の70%は目標ということで、現在、65、66%の状況である。この辺が1つ、処理という面では下水道普及率を予定どおり、ある程度計画どおりに上げていただいているということ。それから、合併処理浄化槽の設置補助ということで、下水道の通ってないところには合併処理浄化槽の設置補助をされているので、この2つについては、ほぼ予定どおりやっていたかかなと。それから、生活排水や河川浄化も、竜田川クリーンキャンペーンなどで住民、行政、団体の活動で毎年やっていたので、その結果として、指標3の市内の河川の水質環境基準値の達成地点数は少しずつ増えてきている。

【久部会長】 それでは進捗度について、行政の進捗度がB、我々も全員Bということで、進捗度はBでよろしいだろうか。

(異議なし)

№. 342 公害対策

【久部会長】 公害の相談件数が少し減っているが、この原因を探るといのはなかなか難しいのだろうか。

【楠下委員】 市民の意識が上昇してきた結果かもしれない。生活騒音であるとか、ごみの問題でも、やっぱり周辺にいわゆるそういった施設が立地している場合については、周辺の住民の方が従来はいろいろ相談されてきていたのだろうが、施設側も意識が上がってきて、設備の対策が徹底されてきたのかなというような感じがする。ただ、やはり今後も行政側としては、定期的な監視をしながら、問題が出てきそうであれば事前に予防措置をとっていく等、今後も継続した取組が必要かなと思う。

【久部会長】 来年度以降の話になるが、自分たちの目標として、何がどうなったら、進捗度がAになるのかを考えていただければと思う。本当に自信を持ってAにするには、あと何が足りないのかということ意識してもらい、今現在Bで留まっている理由を明確にしておいた方がいいと思う。それでは進捗度の確認に入らせていただくが、行政の進捗度がB、我々4人もBということで、進捗度はBでよろしいだろうか。

(異議なし)

【久部会長】 以上で本日の審議は終了させていただく。ありがとうございました。

【事務局】 庶務連絡、閉会宣告。

— 了 —